

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

《医療系》

●長崎大学国際健康開発研究科国際健康開発専攻

「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本研究科には多様な分野の人材が入学している。医学・保健学・看護学・薬学など保健医療分野の知識を有しない学生に対しては、人体と生命の基礎知識を賦与するために、選択必須科目として”基礎人間生物学”を一単位受講させた。また英語力の向上のために、英語の補講（英会話、アカデミックライティング）を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

人体と生命の基礎知識は、研究科の多くの科目を理解する上で不可欠であるので、一年次早期（4月と5月）に集中した講義が行われた。英語の講師としてネイティブの非常勤講師を雇用し、学生の英語力に応じてクラス編成を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

人文・社会学を背景とする学生も、保健医療に関する講義を理解できた。多くの学生が英語力を向上させ、中には卒業時に入学時と比べて TOEIC が 200 点上がった学生もいた。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《医療系》

●長崎大学国際健康開発研究科国際健康開発専攻

「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」の事例

(具体的に何を実施したのか)

学生に実務能力と問題解決能力を身につけさせるために、1年次に3週間、バングラディッシュにおけるフィールド研修、2年次に8ヶ月間、開発途上国においてインターンシップと課題研究を義務づけた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

短期フィールド研修においては、引率教員を同行させ、学生には研修効果を挙げるための十分な準備をさせた。インターン先と研究課題は、できるだけ学生の自主性を尊重して決定された。しかし、インターン先の決定には、研修内容の有用性、信頼できるメンターの存在、安全性などいくつかの条件を付した。課題研究の遂行には、本研究科と相手国の関係機関の倫理審査の承認を義務づけた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

短期フィールド研修において、学生は多くのことを学び、その成果を報告書に纏めた。多くの学生は希望した先でのインターンシップと研究を実施したので、インターンと課題研究は非常に有意義であったと評価している。インターンと課題研究は、学生に国際保健に取り組む上で必要な多くのことを学ばせ、また国際保健に取り組む意欲を更に高揚させたことが、帰国後の学生の報告から明らかである。